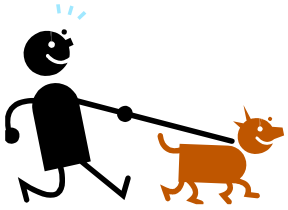
ふらり らいぶらりぃ



～図書室にはこんな本があります～

Ｎｏ．　１５２

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
（書名の後の（ ）の数字は請求記号です。）

問）戦時中のラジオでどのような番組が放送されていたか知りたい。

答）「ラジオ」「番組」をキーワードとして検索してみます。
全資料　→　ことばから調べる　→　ラジオ　番組　⇒　２０５件該当

ラジオ放送は戦時中だけではないので、戦後の資料も含まれています。
ここからキーワードでの絞りこみが難しいので、タイトルと目次から
戦時中のものを探していくことにします。

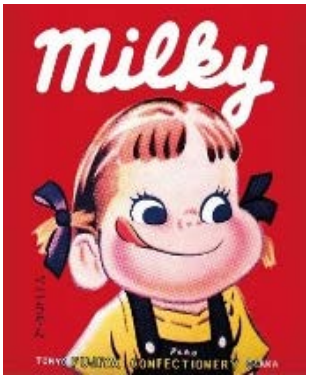
『放送８０年　それはラジオから始まった』(699/N71　開架書棚)
『日本放送史　上・下』(699/N71/1,2　閉架書庫)
『ラジオ年鑑』(699/N69　閉架書庫) ※昭和６年～２５年を所蔵しています
（昭和１４、１９、２１年は所蔵なし）

★子ども向け番組について
『ラジオが語る子どもたちの昭和史』(699/Sh97　開架書棚)
『子どもの昭和史　昭和十年～二十年』(210.7/T33/1935-45　開架書棚)

この他、新聞の縮刷版でラジオの番組表を見ることもできます。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

♪ミルキーはママの味



不二家は明治43年（1910）11月16日、横浜で創業されました。はじめは横浜に居留する外国人を対象に本格的な洋菓子と洋風飲み物を提供する専門店でした。欧米の技術と機械を導入した結果、国内に洋菓子嗜好者を増やすことに成功し、東京へ進出、シュークリームやショートケーキをいち早く日本で販売するなど発展してきましたが、太平洋戦争中は物資不足の影響を大きく受けました。

思うように材料が入手できず、寒天を水増ししてつくったようなゼリーやケーキなどしか作れませんでした。次第にフリカケ、ダシコブ、タクアンなども扱うようになり、昭和19年には食品も売ることができなくなったため、オモチャや人形、ハンドバックまで販売するようになりました。また、機械設備の大半を供出し、ガランドウになってしまった鶴見の工場は、海軍機の小型モーターをつくる「不二家航空電機株式会社」として稼働するようになっていました。

戦後も物資不足と食料品関係の統制で、洋菓子の会社も復興に時間を要しました。昭和25年、不二家の復興はアメリカン・ドーナツ、チューインガムの販売から始まりました。戦災で焼け残った沼津工場では、焼け残ったボイラー１機を手がかりにアメ工場として再生し、地元酪農家の組織する「岳麓酪農組合」から統制外の練乳を容易に手に入れることができるようになりました。アメと練乳、この二つを使って新しいお菓子ができないか、創業者である藤井林右衛門は考え抜きました。その結果、幼児を対象とした”ママの味”、つまり母親の愛情を表現する味ということで、練乳を半分以上も使った「ミルキー」が昭和26年に誕生しました。同時にミルキーのパッケージとして外国雑誌の挿絵をヒントにペコちゃんが、その裏側には男の子としてポコちゃんが生まれました。「ペコ」「ポコ」という名称は、昭和8、9年ごろから不二家がキャラクターの名前候補として温めていたようです。

（不二家ホームページより転載）

左の写真は生まれて間もないころのペコ・ポコ人形です。紙の張り子だったため、叩かれるとへこみ、顔が変形してしまうこともしばしばでした。昭和30年代半ば頃から、人形は現在のプラスティック製に変わってゆきました。物資不足のなか、大ヒットとなったミルキーとペコちゃんが生みだされた背景には、練乳とアメだけが自由に手に入る状況と発想があったのです。

【参考図書】

『不二家　五十年の歩み』（568/F88　閉架書庫）

『昭和レトロ商店街』　　（675/Ma16　閉架書庫）

ー図書室からー

すでに１月上旬の寒さとなってしまったようです。十分に暖かい服装で外出するようにしましょう。図書室入口の消毒液も、風邪予防にご活用ください。

ぶらりらいぶらりぃ　～図書室にはこんな本があります～　NO. 152

2012年12月20日　発行/　編集・発行　昭和館　図書室〒102－0074　東京都千代田区九段南1－6－1